



令和二年皐月

# 城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 156名
○真剣に学ぶ生徒	2年 173名
○健康な生徒	3年 155名
	特別支援学級 8名
	全校生徒数 492名

## なぜ学ぶの

校長 玉崎 芳行

新しい出会いの4月、社会科の授業を始めていくにあたり、よくこんな話をしていた。

「みんなは、社会科って好き？それとも嫌い？得意かな？苦手かな？」 決まってこう返ってくる。

「社会って、覚えることが多すぎてキライ！」 「オレ、暗記すんの苦手なんですけど。」 「なんで時間割りに入ってるんだよお。」 「先生、社会科を勉強する意味ってなんですか？」 その後は…

「それはね、あなたのように素直な人が世の中に出た時に、だまされないようにしてほしいからかな」

「え〜っ?!先生、オレ、だまされちゃうの？」

「そうだねえ。みんな、本当に正直で誠実な人もんね。例えば、私が、授業で発している言葉は、すべて本当のことだと、みんなは思っていますか？」

「えっ…?!…先生、オレたちにうそを教えるの？ マジで？」

「いやいや。うそを教えるつもりはないよ。ただね、例えば、歴史では、私はその時代に生きていたわけではないし、地理ならば、訪れたことがない国や地域もあり、私自身が目にしたわけでもないよね。だから、“玉崎は、ああ言ってるけど本当なのかな？『事実』や『真実』はどこにあるんだろう？周りの友だちは、こう言ってるけど、本当のところはどうなんだろう？”という素朴な疑問。そこをみんなには、大切にしてほしいんだ。『事実』や『真実』を追い、究めていくために大事なことがある。それは、色々なものを使って調べ、色々な角度や視点から見つめる。反対側の立場になって考えてみる。そして、自分の考えを持って、他の人と話し合い、『事実』や『真実』を自分の力で見つけ出す。例えば、歴史で“文化”について学ぶとする。“文化とは、その時代に生きた人たちが、自分たちの暮らしをより良くより豊かにするために生み出した様々な工夫”という視点で見つめる。そのように捉えると、なぜ土器の形は変化したのか？とか、なぜ平仮名が生まれたのか？という見方や考え方が学びの中心になっていくんじゃないかな。地理では、どうしてその地域は、屋根の形が関東地方と異なるのか？とか、その地域の伝統的産業は、なぜ生まれたのか？とかね。…つまりは、社会科は、暗記が中心ではなく、考えて考えて考え抜いて自分なりの考えを練り上げる練習をする教科なんじゃないかな。その練習をみんなと一緒に積み重ね、磨き合うことができると、世の中に出た時に、たくさんの情報に惑わされることなく、自分で『事実』や『真実』を確かめながら、人との絆を紡ぎ、よりよい人生を創っていくことができると思うよ。だから、まずは、私にだまされないように、社会科の時間はみんな協力して、『事実』や『真実』を追い究めることに挑戦してみてね。」と結んでいた4月の教室の風景を思い出した。

休校延長となった今、学びの本質を見失わないようにしたい。チーム城北の子どもたちのために。